



## ファインアートも、デザインも。 「松戸のたからもの 松戸市の美術コレクション」

松戸市教育委員会は、松戸ゆかりの美術をテーマとして充実したコレクションを築いてきました。今回は「ファインアートも、デザインも。」をコンセプトに、その中から、近年寄贈を受けました板倉鼎・須美子や奥山儀八郎、長田国夫の他、大正期にデザイナーの養成を目的に設立され、戦後約20年間松戸市にあった千葉大学工学部（旧東京高等工芸学校）の教授陣と卒業生による約140点の作品を関連資料とともに展示します。

また、会期中は板倉鼎・須美子の書簡をもとにした朗読劇や奥山儀八郎の版画技法を体験できるワークショップの他、学芸員による展示作品の解説、市内の中学生が描いた板倉鼎作品の模写展示、文化財保存活用課公式ツイッターアカウントを作成し、「みんなのたからもの」と題し、市民の皆さんの「たからもの」を紹介する企画など、さまざまな関連イベントで展覧会を盛り上げます。

●会 期 令和4年9月23日（祝）～令和4年11月6日（日）

※プレス内覧：令和4年9月22日（木）10時～15時

●会 場 松戸市立博物館企画展示室（松戸市千駄堀671番地）

●会館時間 9時30分～17時（入館は16時30分まで）

※月曜休館（祝日の場合は開館し翌日休館。10月28日（金）は館内整理日で休館）

●観覧料 一般310円（団体250円）、高校・大学生150円（団体100円）

※小中学生及び市内在住の70歳以上の方、身体障害者手帳、療育手帳または精神保健福祉手帳の交付を受けている方とその介護者（手帳の交付を受けている方1人につき1人）は無料、団体は20名以上

●出品点数 約140点（絵画、版画、グラフィックデザイン、インテリアなど）

●主 催 松戸市教育委員会

●後 援 JOBAN アートライン協議会

●助 成 一般財団法人自治総合センター、公益財団法人朝日新聞文化財団

●協 力 新京成電鉄株式会社、北総鉄道株式会社、流鉄株式会社



## ●展覧会の構成

### 1. 松戸に住んだ作家

松戸には多くの画家や芸術家が住み、優れた作品を残しています。本展では近年寄贈を受けた4人の作家を取り上げます。

#### 板倉 鼎（いたくら かなえ）

洋画家。埼玉県に生まれ、小学生の頃松戸に転居。1924年東京美術学校（現在の東京藝術大学）西洋画科卒業。1926年よりパリに留学、サロン・デ・ザンデパンダン、仏蘭西日本美術家協会展等に出品したが、1929年急病により客死した。

#### 板倉 須美子（いたくら すみこ）

洋画家。東京に生まれる。父はロシア文学者の昇曙夢。1925年文化学院卒業、板倉鼎と結婚。翌年鼎と共に渡仏し1927年パリで油絵を始める。サロン・ドートンヌに3年連続入選するなど高く評価されたが、帰国後病を得て早世した。

#### 奥山儀八郎（おくやま ぎはちろう）

版画家。山形県に生まれる。1928年より東京・丸の内のニッケ（日本毛織）で版画のポスターを制作。1936年石井研堂と出会い日本の伝統木版画に開眼、その復興を志す。1954年松戸市下矢切に転居、版画工房を開設し制作の拠点とした。

#### 長田国夫（ながた くにお）

洋画家。広島県に生まれる。14歳より呉海軍工廠に勤務。1934年上京。働きながら二科技塾に学ぶ。1935年春陽会展入選。翌年帰郷、復職。1938年新文展入選。1945年より高校、中学校の図画教師となる。1956年より没年まで松戸に住んだ。



#### ●板倉鼎《少女と子猫\*》1923年

1923年、東京美術学校（現在の東京藝術大学）西洋画科在学中の作品。パラソルを差して戸外の茂みに腰かけて猫を抱く少女を描いた作品で、モデルは鼎の8歳違いの妹の弘子さんです。かわいがっていた妹へのやさしいまなざしが感じられます。おそらく松戸の自宅の庭で描かれたと思われます。

なお、板倉弘子さんは鼎の早世後、本作を含む鼎と須美子の作品を板倉家で生涯大切に守り、散逸を防いだ方です。一昨年111歳のご高齢で逝去された後、ご遺族から松戸市に昨年寄贈された作品283点のうちの1点です。



やさシテイ、まつど。  
matsudo



●板倉鼎《黒椅子による女》1928年

1928年から翌年春にかけて、鼎は須美子の肖像を連作した。本作は1928年のサロン・デ・ザンデパンダンに出品され、フランスの美術雑誌《L'amour de L'art》（1929年2月）に図版が掲載された。

●奥山儀八郎《NIKKA WHISKY》1958年頃

フランスの版画家ロートレックの作品に基づき、人物を熊に置き換えて制作されたポスター。奥山は1954年に松戸に転居した当時、ゴッホやロートレックなどの作品を木版画に“翻訳”する仕事を続けていた。



2. かつて松戸にあった千葉大学工学部の前身である東京高等工芸学校に関するもの

東京高等工芸学校は、1921年東京市芝区（現在の港区）に設置された、戦前を代表する官立の本格的なデザイナー養成学校です。同校は大橋正や剣持勇などといった著名なデザイナーを輩出し、日本のデザイン史上極めて重要な役割を担いました。1945年の東京大空襲で校舎が焼失し、終戦後の松戸市岩瀬の陸軍工兵学校の空き校舎に移転。その後1964年に西千葉地区に移るまでの約20年間、松戸において先進的なデザイン教育を行いました。本展では東京高等工芸学校資料の中からインテリアとグラフィックデザイナー大橋正の作品を中心に紹介します。



●木檜怒一《子供室机》1924年

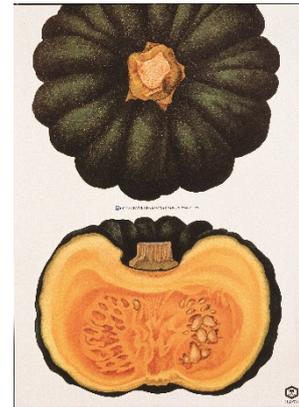
東京高等工芸学校でインテリアを指導していた木檜怒一が、自宅の子供部屋用に制作したとされる机。木檜怒一は戦前の日本において椅子式生活の有用性や、居住空間の改善を主張した。



やさシティ、まつど。  
matsudo

### ●大橋正《PURE AND NATURAL》1975年頃

グラフィックデザイナー大橋正が、キッコーマンのためにディレクションをした「PURE AND NATURAL」シリーズのポスター。当時キッコーマンは自社のコンセプトを「自然で純粋」と定め、本作はそのワードを視覚的に消費者に訴えた。



### 関連イベント

#### ①松戸の作家の紹介講座

いわさわ てつ や

#### 岩澤 哲野 氏演出朗読劇「libido:板倉鼎／須美子」(全4ステージ)

松戸生まれの気鋭の演出家、岩澤 哲野氏が代表を務める theater apartment complex libido: (シアター・アパートメント・コンプレックス・リビドー) が、板倉鼎・須美子が残した絵と手紙をもとに朗読劇を上演

**日時** 令和4年9月24日(土)・25日(日) 各12時から、17時から

※上演時間は約60分(予定)、手話通訳あり

※上演後アクタートーク(約30分)開催

**会場** 森のホール21地下1階 森のスタジオ

**定員** 各回約50人(申込多数の場合は抽選)

**費用** 無料

**出演者** 石原 朋香、松崎 義邦(東京デスロック)

#### ②版画ワークショップ

#### 版画家奥山儀八郎版画の表現技法を体験(全2回)

**日時** 令和4年10月9日(日) 9時~12時、13時~16時

**会場** 市立博物館実習室

**対象** 市内在住の小学4年生から6年生とその家族

**定員** 各回4家族(抽選)※1家族4人まで

**費用** 無料

**講師** 社会教育課学習支援専門員・泉 いずみ 晴行 せいこう

#### ③フロアレクチャー

担当学芸員が展示作品を解説

**日時** 令和4年10月22日(土) 14時から

**会場** 市立博物館企画展示室

**定員** 20人程度

**費用** 展覧会観覧料



やさシティ、まつど。  
matsudo

**共通申込** ①9月12日(月) ②9月20日(火) ③10月12日(水) 必着までに、市ホームページ内の申し込みフォーム(ちば電子申請サービス)または往復はがき・FAXに参加希望のイベント名と日時・住所・氏名・学年(②のみ)・電話番号・返信用宛名を記入して、〒270-2252松戸市千駄堀671「松戸市文化財保存活用課」**FAX**047-384-8194へ

### その他イベント

#### ①板倉鼎模写展

市内中学校の生徒が描いた板倉鼎作品の模写を展示

**期間** 令和4年10月25日(火)～11月6日(日)

**会場** 市立博物館企画展示室前ロビー

#### ②ツイッター投稿イベント「みんなのたからもの」

投稿者にご自身のたからもの名前、素材、手に入れた時期、たからものになった理由などを投稿していただきます。投稿されたたからものは、松戸市立博物館ロビーでのパネル展示や本市のツイッターでご紹介します。

※個人情報の分かるもの、人物顔写真、差別的攻撃的な内容を含むものは、紹介を見送る場合があります

**投稿方法** 会期中に「ちば電子申請サービス」から投稿

**期 間** 令和4年9月23日(祝)～11月6日(日)

### 【本件に関する問い合わせ先】

〒270-2252 千葉県松戸市千駄堀671

松戸市生涯学習部文化財保存活用課

☎047-382-5570 FAX047-384-8194

✉ mckouhou@city.matsudo.chiba.jp